兵庫県知的障害児者生活サポート通信

発　行　一般社団法人兵庫県知的障害児者生活サポート協会　理事長　小原　冷子
事務局　651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号　兵庫県福祉センター内
TEL　078-891-4177　FAX　078-891-4188

「新型コロナウイルス」の一日も早い終息を願って

理事長　小原　冷子

２０２０年はオリンピックが東京で開催され、期待と希望がいっぱいの年になるはずでしたが、年明けから世界中に蔓延しはじめた新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国的に「緊急事態宣言」が出され、様々な行事等が中止となり自粛の日々が始まりました。知的障害の人達が通う通所施設等でも閉鎖にはならなくても日々の日課の中でたくさんの制限が始まり、見通しの立たない通常の日中活動とはかけ離れた日々を余儀なくされた方もたくさんおられた事と思います。ようやく緊急事態宣言は解除されましたが、これからは誰もが感染防止のため「手洗いの励行」・「三密を避ける（密集、密接、密閉）」・「マスクの着用」などの新しい生活スタイルが当たり前になりました。一日も早くコロナウイルスが終息に向かい、心穏やかに暮らせる日々が訪れます様に、心から願っています。

令和２年の兵庫県障害児者生活サポート協会は、13年目を迎え、「生活サポート総合補償制度」は新プランになり補償内容も充実しました。現在の会員数は６，１２９名に増えてきました。本会は、通常の生命保険に加入できない知的障害者の方たちが、病気や怪我による入院や通院、個人賠償責任の補償などの、日常生活で起こる様々な出来事に対する経済的負担の軽減を図るべく、保険会社の協力のもと日々業務を遂行いたしております。また、生活サポート総合補償制度に知的障害児者・自閉症者の皆様が1人でも多く加入して、利用していただきたいと願っております。

公益財団法人兵庫県手をつなぐ育成会との共催事業であります障害基礎年金学習会の開催、また本会自主事業であります権利擁護事業助成制度と地域生活支援事業助成制度を活用しての各サポート協会支部での研修会や、講演会等の開催につきましては、新型コロナウイルス感染症の発生動向等を踏まえ、適宜判断してまいります。ご理解ご協力をお願いいたします。

今後の知的障害のある人達を取り巻く問題について

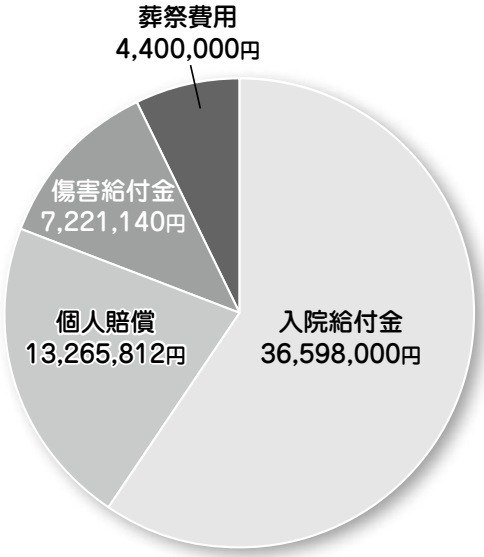
子どもが知的障害者で、親が高齢になりつつある者としては、今後の一番大きな心配事は、親亡き後の問題です。わが子がどこでどのような支援を受けて一生を終えるのかと思うと、心配でなりません。わが子の事となると平穏な世の中であっても心配が尽きないのが親ではないでしょうか？ましてや、災害や震災は個人では防げませんが、今回のコロナウイルスは、次の２波・３波に備えてしっかりとした対策を講じておくことが大切だと思います。出来うる手は打ったうえで、関係者一同力を合わせて立ち向かう事ではないでしょうか。

また、本紙３ページに「生活サポート総合補償制度新型コロナウイルス感染症　特別措置について」を掲載しておりますので併せてご高覧くださいまして、まずは感染しないようにお気をつけて、お過ごしくださいます様にお願いいたします。

令和元年度　生活サポート総合補償制度ご利用状況

補償内容		件数	支払合計額（円）
入院給付金	付添介護保険金	306	22,790,000
	差額ベッド費用	182	5,259,000
	入院諸費用	456	6,015,000
	入院一時金	451	2,534,000
個人賠償		252	13,265,812
傷害給付金	傷害死亡	0	0
	傷害入院	46	3,968,540
	傷害通院	118	3,252,600
葬祭費用		44	4,400,000
合計		1,855	61,484,952

（2019年4月1日～2020年4月1日　プランA・B・C合算）



令和元年度加入者数　6,129名（Aプラン：3,698名　Bプラン：2,201名　Cプラン：230名）

令和元年度　正味財産増減計算書

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

（単位：円）

科目	合計額
Ⅰ 経常収益	
会費収入	15,561,600
雑収入	167
経常収益計	15,561,767
Ⅱ 経常費用	
管理費	7,448,854
会費	1,224,148
事業費	2,314,898
予備費	0
経常費用計	10,987,900
当期一般正味財産増減額	4,573,867
一般正味財産期首残高	11,472,562
一般正味財産期末残高	16,046,429

【保険料　収入の部】

科目	合計額
預り保険料	101,605,800

【保険料　支出の部】

科目	合計額
預り保険料	101,605,800

令和2年度　予　算　書

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

（単位：円）

科目	合計額
Ⅰ 経常収益	
会費収入	15,278,700
雑収入	2,000
経常収益計	15,280,700
Ⅱ 経常費用	
管理費	8,445,000
会費	1,320,000
事業費	2,900,000
予備費	10,000
経常費用計	12,675,000
当期一般正味財産増減額	2,605,700
一般正味財産期首残高	16,046,429
一般正味財産期末残高	18,652,129

【保険料　収入の部】

科目	合計額
預り保険料	117,371,300

【保険料　支出の部】

科目	合計額
預り保険料	117,371,300

ホームページアドレス：http://www.hyosuppo.sakura.ne.jp/

生活サポート総合補償制度 新型コロナウイルス感染症特別措置について

新型コロナウイルスの感染者数増加により、全国各地で入院可能な病床数の減少が生じ、本来は入院が必要な患者様が入院できなくなる事象が各地で発生しています。
この状況を踏まえ、医療機関の事情により入院できなかった場合等においても、所定の条件を満たしたときは、入院したものとみなして、生活サポート総合補償制度の入院給付金をお支払いします。

◆特別措置の内容

医療機関・医師の指示により、臨時施設（※）または自宅で入院と同等の療養をした場合は、入院したものとみなして、入院給付金をお支払いします。

※厚生労働省が2020年４月２日に、地方公共団体に対して、無症状・症状の軽い新型コロナウイルス感染者を「宿泊療養」、「在宅療養」とするための準備に関して通知しましたが、この「宿泊療養」のための宿泊施設を含みます

なお、冒頭記載の病床数の減少は、新型コロナウイルス感染者以外にも影響していることを踏まえ、この特別措置は、新型コロナウイルス感染症以外の病気やケガをした被保険者様に対しても適用します。

◆特別措置をする場合の保険金請求時に必要な書類

通常の書類に加えて、次の①～③に関する医療機関・医師からの書面による証明が必要です。

①入院と同等の療養が必要と判断し、臨時施設または自宅での療養を指示したこと
②臨時施設の名称・住所
③臨時施設、自宅のそれぞれで療養した期間

今後も会員様の日常生活の中で、様々な危険を総合的に補償するための制度とし、より一層お力添えができるように努めてまいります。

一般社団法人　兵庫県知的障害児者生活サポート協会
（問い合わせ先）　ジェイアイシーウエスト株式会社
TEL：0120－177－294

保険金支払い状況から見る 知的障害児者の医療等ついて

兵庫県生活サポート総合補償制度　2018年度請求件数と支払い保険金の状況

補償内容	補償項目	件数	支払保険金合計（単位：円）
病気やケガで入院した時の補償（入院給付金）	付添介護	275	20,960,000
	差額ベッド費用	167	5,193,000
	入院諸費用	413	5,431,000
	入院一時金	411	2,312,000
他人に損害を与えた時の補償	個人賠償	207	11,377,050
傷害（ケガ）をした時の補償	傷害死亡・後遺	1	40,000
	傷害入院	50	3,231,840
	傷害通院	114	3,781,040
病気で死亡した時の補償	葬祭費用	37	3,700,000
合　計		1,675	56,025,930

※2018年度加入者数：5,959名

2018年度入院給付金請求データからわかること

・入院者数は400名超で、加入者全体の7%程度
・付添介護、差額ベッド費用を要した入院は、平均10日程度
・入院諸費用の支払い件数から、1入院の平均日数は約13日

【個人賠償関連について】

☆損害対象物のトップ3は・・・？

第1位　ガラス：56件、第2位　壁・ドア：42件、第3位　メガネ：35件

※このトップ3で支払い額・頻度とも65%超となっています

☆意外に多い自動車の損害

自動車に損害を与えた事例が15件発生、支払い保険金は約150万円となっています。

13件が自動車へのイタズラ、2件が自転車で自動車に衝突した事例でした。

☆最高支払い額は…？

通勤途上での自転車での人身事故で約110万円の保険金支払いが最高額となっています。

【自転車加害事故高額判決例（参考）】

2013年7月4日神戸地裁　支払い命令額：9,521万円

男子小学生が夜間、帰宅途中に自転車で走行中、歩道と車道の区別のない道路において62歳女性と正面衝突。女性は頭蓋骨骨折等の傷害を負い、意識が戻らない状態となった。

地域生活支援事業助成制度

西宮市　本田　洋子

令和2年2月4日「育成会フォーラム2019～みんなですすめる『安心』のまちづくりpart3」を開催しました。このフォーラムは、西宮市の地域生活支援拠点の面的整備に向けて、行政と関係機関がそれぞれの役割について考え、その完成図を共有する機会になることを願い、2017年度より自立支援協議会と共催で開催してきました。

今年度は、昨年のフォーラムの中で又村あおい氏から「自立支援協議会が高レベルで機能を果たしている事例」として紹介いただいた調布市より福祉健康部長山本雅章氏をお迎えし、調布市の自立支援協議会がどのように機能を果たし地域生活支援拠点の整備に結びついていったのかをお話いただきました。

助成金をいただき、多分野の方々と共に学ぶことが出来ましたことを御礼申し上げます。

＊　＊　＊

小野市　萩野　優子

昨年、育ての手助けになればとサポート協会のご支援を受けて実施しましたペアレント・トレーニング（略してペアトレ）を今年も開催することができました。兵庫教育大学の岡村章司教授が昨年に引き続きご指導してくださることになり、たくさんの院生さんも参加されて、回を追うごとに話し合いに熱が入ってきています。

小野市

ペアトレは講義を受け身で聞くのではなく、保護者同士がグループでわが子を含め全員の親になったつもりで、一人一人の子どもについて考えていきます。回数も多く、全7回ということもあって興味はあるけれども参加できないというお母さんたちが多い中、何とか都合をつけて7人のお母さんが集まってくださいました。

初対面でのスタートでしたが、3回目を過ぎる頃にはすっかり打ち解け、持ち寄った記録をもとに話し合い、その後はランチで情報交換ということも。記録や環境構成も先生が感心されるほど細やかで工夫されたものが次々と提出されていました。保護者の接し方ひとつで子どもが変わっていく様子が手に取るようにわかり、大変だけれど記録をとること、客観的に子どもをとらえることの大切さが実感できました。きめ細やかな指導とサポートでお世話になりました岡村先生と助手の院生の皆様、本当にありがとうございました。

【参加者の声】

ペアトレ。正直、今まで聞く耳を持っていませんでした。でも子どもの成長とともに苦戦することが増えていき、これはどうにかしないと！と思って参加することにしました。

参加してみると戸惑うこともありましたが、理解ある者同士の話は安心でき、一緒に悩み考えることができました。先生のアドバイスをもらえることもとっても大事でした。頭で悩んでもどうにもならない。でも、ちょっとしたアイデアや工夫で、親も頑張りすぎずに子どもと成長できる方法があることがわかり、大事な時間となりました。

これをきっかけに、他の悩み事も頑張りすぎずにやっていけたらなぁと思っています。

＊　＊　＊

太子町　内海　育子

太子町支部では世界自閉症啓発デーに太子町のシンボルである斑鳩寺を紙コップにLEDライトを入れてブルーにライトアップする企画をしました。サポート協会の助成制度を利用し、町内の保育園・幼稚園・小中高等学校・事業所などに紙コップを配布し、絵や文字を自由に書いてもらいました。この紙コップ企画は2年目で太子町障害福祉課をはじめ、いろんな方の協力を得ながら実施することができました。

社会の中で生活していくにはさまざまな人々と関りを持ちます。子どもたちの存在を知ってもらい、出会った方々と顔の見える付き合いを大切にし、つながりを強くしたいという思いで紙コップを配布しました。

最後になりましたが、4月2日のライトアップは残念ながら新型コロナウイルス感染防止のため中止となりましたが、助成をいただきありがとうございました。

AIG保険に加入して

西宮市　近藤　眞由美

息子は、特に身体が弱い訳でもなく、骨折等の治療も入院には至らず、保険を使うことはあまりないかも…と思っていました。

少し前のことです。家では不穏になって暴れることはあっても、ええかっこしいの彼は、外では穏やかでした。その彼が、グループホームのリビングのテレビを壊してしまいました。何があったのかはわかりません。職員もその瞬間は確認できなかったようです。知らせをきいて慌てましたが、他の利用者を傷つけなかったことは幸いでした。

AIGの生活サポート総合補償制度の保険に加入していたおかげで、新しいテレビの購入費用を個人賠償責任保険金で支払うことができ、大変ありがたかったです。いつ何が起こるかわからない彼らの暮らしに、やっぱり「保険」は必要でした。

ただ、残念なことに、その後も不穏な状態が続き、グループホームの自室のテレビ、自宅の自室のテレビ…と立て続けに同様の事態となりました。もちろんこの2台は私物ですので保険金の請求はできず、今もホームの自室にテレビはありません(笑)

権利擁護事業助成制度

宝塚市　浅山　みゆき

9月16日(月)、社会福祉法人明星会の理事長、宮下智氏を講師にお迎えし「本当の気持ちと出会う時」をテーマに講演会を行いました。長野県の入所施設「明星学園」では重い障害のある方も、一人ひとりに寄り添った支援をされています。コミュニケーションは言葉だけではなく、視線や体の動きなどからでも受け止める事が出来ると事例を挙げて話しをされました。彼らの傷つく気持ちを知る。障害を持つことは悪い事である、自分は迷惑な存在であると考えている彼ら。そして疎外感を持っている。行動障害には、やりたい気持ちはあるのに、望んでもいないデタラメのことをやってしまう。言葉を理解する能力もあり、いろいろな事を感じ、考え、悩んでいるのに言葉で伝えられず、心もとないことを口走ってしまう。喜び、怒り、悲しみ、恐れなどすべて感じているのにスムーズに伝えることができず苦しい気持ちでいる。「彼らの本当の気持ちと出会う時」は支援者（応援者）が名探偵コナンとなり彼らを知ることが大切であると言われ、本当に理解しているつもりでも考えがそこまで至っていなかったと反省した研修会でした。当日は、他府県からも参加されていました。

編集後記

サポート通信№.21の発送作業は、「明石地区手をつなぐ育成会」のみなさんにお願いしました。

★ パンフレットのご請求・お問合せ先 ★

●補償制度担当：ジェイアイシーウエスト株式会社
〒540-0026 大阪市中央区内本町1-1-1 OCT 7階
フリーダイヤル：0120－177－294

●一般社団法人 兵庫県知的障害児者生活サポート協会
TEL：078－891－4177
E-mail：hyogo-support@voice.ocn.ne.jp